

第1回有田内山グランドデザイン検討委員会（会議概要）

日 時：令和2年10月30日（金）14：00～16：05

場 所：有田町役場議員控室

出席者：【委員12名】今泉今右衛門、深川祐次、百田憲由、手塚英樹、大坪康敏、
篠原祐美子、上野菜穂子、清水耕一郎、松岡恭子、馬場正尊（オンライン）、
浜野貴晴、松尾佳昭

【事務局4名】木寺寿、鷺尾佳英、旗島史郎、山口睦

【欠席1名】宮原真美子

※敬称略

1. 開 会
2. 町長挨拶
3. 委嘱状交付
4. 委員紹介
5. 有田内山グランドデザイン検討委員会について
6. 議 事

（1）委員長・副委員長の選出について

木寺：事務局案としまして、委員長を清水委員、副委員長に深川委員にお願いしたいと考えております。ご承認いただけますでしょうか。

（一同拍手）

清水：全然夢が無くなってきているという現実が内山地区にあってですね、もう一回資源を見つめなおすと、夢がいっぱいあるじゃないというあたりを描くということがこの委員会の使命だと思っています。ぜひ、進め方そのものも楽しくなるようにやっていければなと思いますので、ご協力よろしくをお願いします。

（2）有田町及び有田内山の現状について

(事務局から資料3により説明)

7 意見交換

馬場：新しいタイプの産業誘致みたいなこと、クリエイティブな産業の誘致みたいなことを、本気で取り組む方法はないだろうかともず思いました。有田はデザインとテクノロジー、職人の技が結集した場所で、あらかじめ知名度、そういうブランドイメージを持っていると、その伝統的な圧倒的な強さがあるからこそ、それと掛け合わされて生まれる新しい産業を誘致する方法はないだろうかと思ったわけです。最近のそういうクリエイティブを仕事とする人の傾向として、都会に居たいというよりも、環境のいいところで、クリエイティブな空気の中でしっかり仕事をしたい。やはり若い世代を居住させるためには、ここに住ませたり、関係人口を増やしたりするためには、有田で仕事をすることたくさん起こせば、自動的に住む人、来る人を連れて来られるのではないかと思っていて、それについてしっかり取り組むことができないかというふうに思いました。もう一つは、観光についてなのですが、ロングステイの観光地、ロングステイの場として、有田という町を再定義できないかなと思っていました。例えば一週間有田にゆっくり滞在して、やきものをゆっくり周って、たくさんのお金を見て買っていき、観光というより、ツーリズムですかね、そういう味わうように陶器の美術、風景を味わうような宿泊みたいなものが似つかわしいし、そういう人こそたくさんのお金を落としてくれるのではないかなと思ったりしてですね、もてなし型のツーリズムみたいなものが、有田の町には似つかわしいのではないかと思ってですね。ちょうど今、若い世代が有田で新しいタイプの宿を起こしたりとかですね、協力隊のかたが頑張っていてコワーキングスペースを作ったりしていらっしゃるの、そういうような、一種のクリエイティブ産業の誘致だと思うのですが、そういったところをより加速させていくような、そういうようなことが考えられればなど、そんな思いをうっすら持ちながら参加させていただいているところでした。

百田：2011年からですね、海外のデザイナーの方を受け入れながら、ブランドを作るようにしてきた時に、海外のデザイナーの方が言ったのは、とにかく有田は環境がものすごくいい、自然もいい、食がまた美味しいものいっぱいある。内山地区の空き家ももったいないというのですね。そういうところを、世界のクリエイターが集うとか、間違いなくここは世界にしっかり発信すれば、クリエイターがここに長期滞在しながらビジネスができるということ、よく言っていたので、そういう形で、まちの再生も含めて、世界中のクリエイターが来て、いろいろなものづくりがあっという間、いいと思うのですよね。そういう環境があるがゆえに、また新しい有田焼の発想とか技術とかも含めて、時代にあったプロダクト商品がこの町から生まれてくるのではないだろうかというふうに思っております。

浜野：有田自体にポテンシャルがあるのですが、そのポテンシャルが有効活用されていない状態ということが、一番危惧しているところで、これだけコンテンツとしての重伝建指定されている建物ありますとか、トンバイ塀ありますとか、そういう話はしているけれど、ありますしか言っていないかな。何があるかということを引きちゃんと整理して見せていくということがもっと重要だろうなと思っているところがあって。有田に来た時に、面白いなって思ったのは、普通の町並みとうのは、平入でつくられていくのですが、有田の町は妻入りが軒を連ねているのというのが、有田の町並みの特徴ですが、それを誰も発信していないですよ。あと、空き家がいっぱいあるので、そこをうまく有効活用したいという気持ちはすごく可能性を感じていますし、有田は滞在ができないということがネックでお客さんから言われることがあるので、新しく作らなくても、古い町並みをうまく使ってということが十分に可能なのかなと思います。陶器市の時の店舗貸しによって、一年間の税金や費用が賄えてしまうという現状が逆に足かせになって、空き店舗が貸されないというところもあって、いろいろやりたいけどできない現状と、それを打開するためになにができるかというところをセットで考えていかないと、やりたいだけ言っているのも、ちょっと、無責任かなと思う部分もあるので、セットで考えていくべきかなと思います。

清水：不動産が流動化しない原因があるのですが、次から事務局で用意する資料の中にもそういう、空き家が出てきても流動化しないというあたりの問題点は少しえぐっとく必要があるのかなと気がしますよね。ちゃんとした現実を見て、対策を立てるといふふうにやっつけていかないといけないと思いますね、

手塚：古民家のリノベーションを中心として、馬場さんが大変面白いことをなさっていることはずいぶん前から見させてもらっていたのですが、現実的に地元に住んでいるものから見ている状況をお話しさせていただきますと、独居老人、特に女性の方が割と多いのです。皆さん、空き家というふうに思われているのですが、実際には住んでいらっしゃる。有田の町、内山地区が賑やかになってほしいということは、前向きな気持ちとしてあられるのですが、自分たちのプライベートの生活と、(路面に)店を出したり、住んでいくというところの住みわけの仕方。それに対する出資、投資というのは高齢の方が多いもので、なかなかできるものでもない。それを家賃の中からとっていかうとすると、家賃が上がってくる。上手にお話できて、貸していただける場合もあるのですが、大方のところ、店舗にしようとする、水回りのところがどうしても奥のほうにあるわけですよ。これを表のほうで別々にユニットタイプにできればいいのですが、なかなかいいものがない。ここが一番のネックだと思っています。上手にできれば、民泊や長期滞在の形が作っていけるかなと思いますが、そこに投資をしていく、泊まる方をちゃんとエージェントとして入れてくれる、例えば観光協会がそれを担うような形で、窓口が一本あれば、そこからお客さんが入ってくるような、全体像のソフトとプライベートとの仕切りが上手に出来

上がってくればいいかなと思います。

浜野：佐賀県の400年事業の2016の流れを受けて、県としては、この地に世界中からクリエイションの場として、ここに来てもらいたいとくことがあって、クリエイティブレジデンシー有田というアーティストインレジデンスの活動を佐賀県として実施しています。これまでのクリエイターが有田の町にやってきて滞在してもらおうという動きは継続してやっていきたい。やってみて経験を積んでいかないと、受け入れるということがどんなことなのかわからないので、この事業自体はそういう経験を積んでもらおうという目的でやってきましたので、引き続きそれが動いていくことで、外からの視点で有田を見ながら有田に対するものづくりの新しい気づきみたいなことを提供してもらうことは、継続していけるのかなと考えています。ただ、受け入れる側が疲れちゃっているところがあるので、サステナビリティを考えると、いかにそういう人たちを受け入れるプログラムというものをうまく考えていくかが重要なかなと思います。

清水：本当の意味でのホスピタリティがあるかということ、そんなに根付くほど、昔からあるわけではないから、そういう意味ではすごい発展ですよ。多少の疲弊はしょうがない、なるべくみんなでケアしたいですね。

松岡：伝建地区はいろいろなところにあるのですが、これを機に、ほかの伝建地区はどういうところがあるのか、そこでどんなことをやられていて、その中で有田という立ち位置はどこにあるのかというようなことを、外との比較で調査してみる、勉強してみるということが大事なのかなと思ったのが一つです。また、切り口を変えて、やきものの町とすれば、また日本中、あちこちと比較ができるわけなので、有田らしさとか、有田独自のことをやるためにも、または、他がやっているから自分もやったほうがいいのかということもあるかも知れないので、そういう材料をちゃんとチェックするためにも、他のやきものの町との比較、調査ということをやられたらどうかなと思いました。それから、この広場、小学校跡とか、銀行もなくなるということですよ。これをいかにポジティブに捉えるにはどうするかということところがポイントなのかなと、都市空間の専門家としてはそう思います。例えば、私のようなよそ者が有田に来た時に、「一体どこに行けばいいのかな」みたいなものがあるのですよ。美術館はもちろん行けるでしょう。だけど、どこの扉が開いているのか、私たちが受け入れられないのかという判断がまあ難しいですよ。もう一つは、高齢化は否めない、それは受け入れて進まないといけないときに、年配の方たちのコミュニティスペースみたいな人が交わるような場所というのは、どこにあるのかなと思いました。もしかすると、そういう跡地の利用として、半屋外みたいな、きちっとした建物ではなくて、そういうところがやきもの市の時は何かに使えたり、日常的な人の交流の場であったり、そういうボヤっとしたような所が生まれてきたことで、個々の建物が生かせるみたいなことに、遡るみたいなことができるのかなと。トイレとかですよ。そういうものも跡地

のほうで吸収してあげて、中ですること、半屋外ですること、外ですること、そういう空間のグラデーションみたいなものも研究の対象かなと思いました。私は縁あって石川県の小松、金沢に度々行くことがありまして、あそこはクタニズムとか、九谷のいろいろな取組をされているのですが、その中でちょうど1年前に伺った面白い取り組みをご紹介します。非常に古い名刹に、そこに音楽あり、やきものあり、食事ありというような、すごく連続したイベントがありまして、やきもの楽しみ方がこんな楽しみ方があるのだと教えられました。やきものと繋がる食だとかワインだとかいろいろなものが繋がっていくようなものも、これからの有田の未来に向けて素敵そうな気がするので、ご紹介したいなと思いました。

清水：どういう暮らしが見えてくると、移住してくれたり、来訪してくれたりするのだろうかというところが、それをコンテンツにしていかなきゃいけないと。

松岡：やっぱり地元のかたが面白そうに生きているところに行きたくなるというか、住みたいのもそうだけれど、観光も人とふれあいたいと思っていく観光というものが増えていると言われていますが、どこでふれあえばいいの？みたいなことはよくあるので、そういう、人が浮き上がって見えてくるということはすごく大事なことかなと思っています。

今泉：伝統工芸は全国いろいろあるのですが、有田の特殊性はやはり、一つのしごとを400年間してきたという特殊性があると思うのですよね。他のところになくて、有田にあるというのは作る技術については、いろいろなコンテンツが有田の中にあるというのが大きな特徴で、そこを一つの柱にしながら、人が有田に来て、地元の人が生き生きとしないといけない、人が寄ってきて、地元の人がいきいきどうできるかという、結果的に昔のものが残っている町じゃなくて、有田の町は昔のものの中で、新しいことをどんどんどんどん吸収して、家でも街なみだって変わっているし、狭かった道路が大きくなったが、それをちゃんと受け入れながら残っているという、そういう風な最先端のことをしながら、古いことと一緒に共存しているという、そこがすごく大切なものなのかなと思いますね。検討部会のようなところに、他のところから有田に来ているかた、有工生や佐大生とか、違うところから有田に来ている人が、有田を好きになって残っていく、いずれは戻ってくるという考え方も持つために、そういうかたも一緒に巻き込みながら、皆でこれを考えるというようなことが、いろいろな場所でできるといいなと思いますね。

清水：有田は、もともとはよその人をうまく迎え入れるというか、うまく使っている、そういう場所ですよな。

松岡：そうじゃないと400年続かないですよ。変化に強くないといけなし、外から入れてくる力がないと400年続かないですよ。

篠原：ビジョンをもう少し明確にしたほうがいいかなと思いました。10年後の有田町の中の内山地区としてどうなっているかということとか、その時の数値的な目標が何かしらあれば、そこから逆算して、いま取り組むべきことが見つかるかなということですかね。一般の人たち向けの長期滞在型プログラムがあればいいかなと。

もう少しフラッと観光として行けるような、そういうのがないなあと思った印象がありました。

上野：うちに結構相談を受けるのですが、やきものを学んでいる人たちや、やきもので食べていこうという若い人たちが、移住してきたいとか、住む場所を探されていて、窯付き、作業場付きの物件を探されているかたがすごく多いのです。その人たちの提供できるような物件を紹介できなくて、そういう人たちが違う町に行ったりとか、やきものに従事されるかたたちの給料がなかなか少なくて、これでは食べていけないと皆さん離れていったりとか、そういうのをよく見ているので、そういう若いやきものやっている人たちがちゃんと滞在して、ものが作れて、育ていけるような場所ができるといいなと思っています。移住者や新しい人たちを入れるということも大事なのですが、居たいという人たちがいて、そういう人たちが居られないという状況があるので、何かできたらいいなと思います。

清水：窯元さんでオープンに貸せるよというようなバンクも欲しいよね。肥前窯業圏の中でも休業施設があるところはいっぱいあるので、すぐにやりだすかもしれない。

大坪：おそらくキーワードとなってくるのは、ロングステイだということだと思います。やきものを学びたいとか作りたいとかってあるのですが、幸いなことにやきものは一日ではできなくて、ある一定の期間がかかるという要素がありますので、やはりロングステイを目指すべきではないかと思います。もう一つは、最近、台風とか豪雨災害がありまして、まちづくりっていろいろなコンテンツをどういう風に組み立てていくかが大事なのですが、その前に安心安全、防災とかということが確立されていないと、そういったことが展開できないんじゃないかと。30年から50年先のランドデザインを考えるということであれば、こういった環境の変化に対応できるインフラ、当然、これからの時代ですから通信も含めて、そういったスパンで検討していくべきではないかと。ソフトの部分もですが、ハードもしっかりと30年、50年かけて揺るぎないものにしていく必要があるのではないかと思います。

清水：クオリティを高めて住みたいとみんな思っているわけで、それが根源だもんね。安心して住めるところがないのに、デザイナーを呼んできて、ものすごい暴風雨になったら、もう来てくれないよね。ファンデーションの議論としては大切な大事なところを気が付かせてもらいました。

大場（オブザーバー）：歩くときに歩道が狭いなというのが、ちょっと感じていて、平日に知り合いがきて案内すると、車が近いので、ドキドキする感じがあるので、歩道のところも少し、案内する身としては気になるところでもあります。

深川：昔ありましたよね、メイン道路を一方通行にするとか。そのためには国道のメイン道路をもう一本作らないといけないというジレンマがあり、内山地区というのは土地がないということで、その辺がネックとなっているのですが、少しずつでもいいから、そういう通りというか、ある区間だけでも作っていくということも面白いかもしれませんよね。波佐見町は、窯業関係も一時期伸びた時期もありました

よね。どこに原因があるのかと考えると、朝飯会でいろいろな意見を戦わせているということもあって。ここもたくさんの方が集まって、これから話し合っていくのですが、もっともっと広い分野で意見を集約させてグランドデザインを決めていけばいいかなと思います。ここ以外のところで、いろいろな意見を求めるということも必要かなと。

清水：違う専門分野の人をお呼びするとか、そういう会を別仕立てでやって、皆で聞きに行くとか、そういうようなことがこれをやりながらできるといいですね。

手塚：道路の話がありました。地元のものからすると、今回のグランドデザインの中で一番望んでいるのはそこなのですよ。その道が是非欲しくて、原宿からバイパスに道が繋がっていくと、大型車はだいぶ減るだろうと思うのですが、大型車が通るそばを歩くのは怖いと観光客のかたは言われるのです。特に札の辻を中心にして考えると、商工会議所跡地を通して、前の歴みちの姿がありましたよね。あの道を今回のグランドデザイン中に組み込みたい、組み込んで欲しいというのが皿山商店街のメンバーの声です。この辺りも、グランドデザインが建物だけではなく、そういうインフラのところも入れて欲しいということが地元の大きな声です。

松尾：大坪委員のほうからも防災の観点でもありましたが、英山に登ったのですが、そこからみると内山の地形は、これ以上何もできないと思うような地形なのですよ。手塚委員の歴みちの話があり、400年の伝統の中で、今泉委員がおっしゃたように、歴史と最先端のものが融合する通りだなと思っているのです。いかに変化していくかという中で、今後50年、100年を見据える時の大きなチャンスとして、佐賀銀行が一旦フラットになるから、皆さんと議論するタイミングだと思って、今回の話をしていて、いろいろな思いをぶちまけてもらっていいと思います。もう一つ、グランドデザインの検討部会があって、こういう検討委員会だけで話された話がなかなか実行できないというのは歯がゆいので、若い人たちの感性とか、有田を好きになってもらえるような人たちの意見を取り入れるような、実働部隊というか、そういうものを作っていければなと思いとしてあるので、我々が決めたことが全てではないと思いますので、いろいろな意見をもらいたいと思っています。

清水：ぜひ、次回からはテーマを事前にお届けしながら、それについて議論を深めていければなと思います。次回は定住とか仮に書かせていただいています。もうちょっと全体の中で、空き地をどうしようかという話をもう少し早くから始めようかということもあって当然だと思いますので、その辺のやり方は事務局とも打ち合わせをしながら、会議の前にお届けできるようにしたいと思います。今日はこの辺で終わりたいと思います。